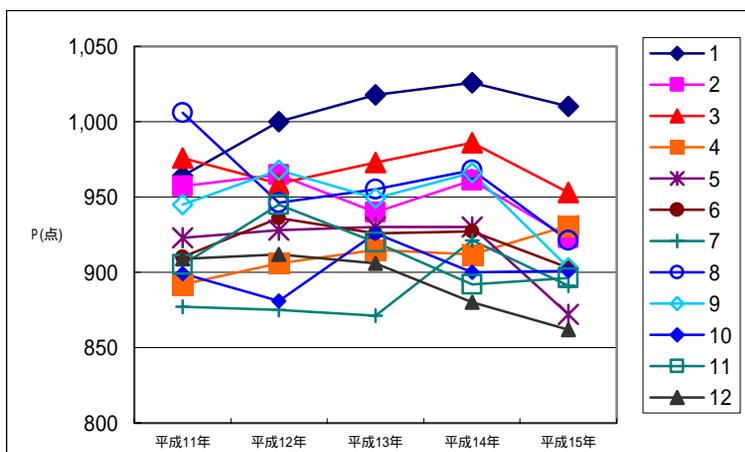


< Z点攻防 各社の戦い >

Z評点(技術力評点)は安定した指標なので、各社とも増強に努めておりますが、建設需要の落ち込む中、最後の砦も維持できなくなる会社も見られます。

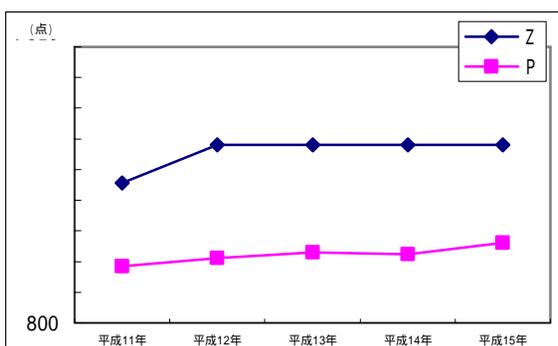
グラフ1



グラフ1は、長野県のある地域の個別建設会社12社の土木一式工事における5年間の動きです。長野県では、郵送方式による競争入札が昨年(2003年)2月より実施されていて工事の発注量が落ち込んでいる上に、激しい価格競争により、個別企業においては受注量の減少、低価格落札による利益の低下を招き、各社とも厳しい経営を強いられています。そこで平成15年において、全体としてP点(総合評定値)が下がっていることが分かります。平成15年の決算においては、郵送方式の入札は平成15年2月から実施されている関係から、その影響は100%反映されているわけではありません。決算期の違いにより影響度が違ってきます。平成16年1月決算以降は1年経過しましたので、100%反映した決算が出てきます。そこで、さらに厳しい結果が出てくると予想されます。競争の結果を判断するにはまだ早いのですが、個別企業のZ評点(技術力評点)の推移を5年間のデータを見ながら考えてみましょう。

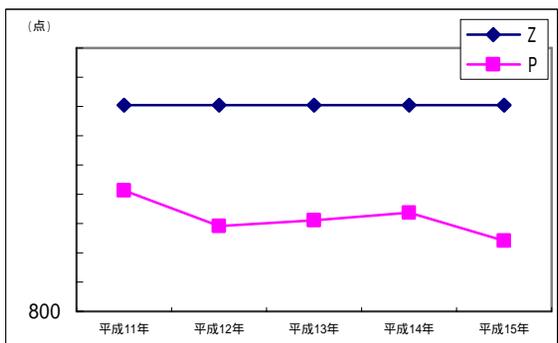


A社



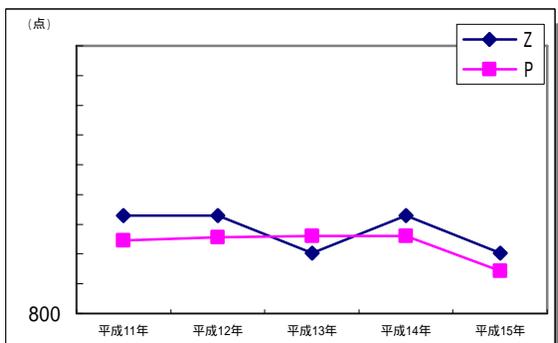
A社は、5年間安定した数値を残しています。利益は少し下がっていますが、完成工事高、技術職員数は、安定しています。

B社



B社は、直近年度において完成工事高が減少し、利益も減少しています。しかし、まだ、雇用は維持しており、Z評点(技術力評点)は高い数値を残していますが、今後どうなるかが心配されます。

C社



C社は、今まで安定的な経営をしてきましたが、直近年度において、完成工事高を大きく減少させ、厳しい点数となりました。過去の蓄積により経営内容はよいのですが、技術者数も減少しZ評点(技術力評点)も下がっています。

雇用は景気動向判断においては遅行指標に属しますので、Z評点(技術力評点)の減少は他の指標の悪化を前提としている場合が多く、P点の低下につながっています。売上減少、利益減少 技術者減少にどこで歯止めがかけられるのか各社の熱い戦いが続いています。ライバル会社のすう勢をグラフにして冷静に分析して競争に勝ち抜きましょう。

WISENET編集部 松村 清 (税理士)

